



Monthly Pediatrics News Letter

第79号

令和5年11月

発行：産業医科大学小児科学教室

作成者：保科隆之（小児科通信係）

<はじめに>

産業医科大学小児科医局員、小児科入局を表明している初期研修医・学生の皆さん、日ごろの業務および勉強ご苦労様です。

暑くて長かった夏が終わり、ようやく過ごしやすくなりました。ただ気が付けばもう11月です。夏が暑かったため、涼しく感じますが、11月なのに日中は半袖でも過ごせるというのは異常かもしれません。6年生の皆さんは卒業試験でそれどころではなく、間違うことはないと思いますが、季節がおかしいため国家試験までまだまだと勘違いしないように気を付けてください。

毎月配信しております小児科通信をお送りします。今回も大学で行われたイベントや学会参加予定などをお知らせします。小児科入局を表明していただいた学生の皆さんと当教室に興味を持っていただき見学に来られた学生さんと先生にもお送りしております。提供する情報に興味を持っていただけると嬉しいです。

通信を読んだ感想やご意見・ご要望を小児科通信制作責任者 (hoshina@med.uoeh-u.ac.jp) までお寄せください。今後の参考にさせていただきます。

<10月の医局行事>

10月16日 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

2022年9月から2023年8月までに採択された症例報告論文の報告会です。全部で6篇の論文を報告していただきました。注目の優秀論文受賞者は、永汐 孟 先生と米田 哲 先生となりました。最近、症例報告論文を採択してくれる雑誌が少なくなっていますが、とてもまれな症例や教訓的症例を世界に向けて紹介することはとても大事なことだと思います。これからも貴重な症例を論文という形で世界中の人たちに向けて多く報告してくれることを期待しています。

10月26日 産業医科大学小児科セミナー

担当は神経グループでした。福田先生、五十嵐先生、重田先生が「脳性麻痺 up-to-date」という発表を行いました。

<11月の医局行事予定>

11月13日 19時～ 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

演題名：成長ホルモン適応疾患 ～最新の話～

演者 齋藤 玲子、桑村 真美、多久 葵、池上 朋未

場所 産業医科大学大学 2 号館 2 階 2208 教室

11 月のクリニカルカンファレンスは内分泌・代謝グループの担当です。

11 月 11-12 日 18th Congress of the Asian Society for Pediatric Research (Web)

2 年おきに開催されるアジア小児科学会の学術集会ですが、今回は東京大学小児科が主催で Web 開催されます。当教室からも 5 人が発表します。今回は Web 開催ですが、国際学会の現地開催が再開されるようになってきました。若い先生を中心にこれからもできるだけ国際学会で発表してもらいたいと思っています。

11 月 25-26 日 第 76 回九州小児科学会・大学対抗親睦野球大会（長崎市）

例年秋に開催される学会です。学会の前に、九州・沖縄地区にある大学の小児科医局対抗野球大会が開催されていましたが、新型コロナウイルス感染症流行の影響で 2020 年から 3 年間は開催されていませんでした。今年は 4 年ぶりに野球大会も開催されます。過去には優勝したこともあります。お時間のある方は応援に来てください。詳細を知りたい方は医局までご連絡ください。

11 月 30 日 18 時～ 産業医科大学小児科セミナー

学位取得報告

演者 1 塩田 直樹

演題名 日本の労働者における COVID-19 の流行による働き方の変化と精神的苦痛の関連

演者 2 千手 絢子

演題名 生後 6 か月時に腹臥位で胸部を挙上できない児の発達に関する検討

場所 産業医科大学大学 2 号館 2208 教室

11 月のセミナーは、昨年度後半に学位を取得された塩田先生と千手先生に研究内容を報告していただきます。学位取得を検討している方はぜひ参加してください。

12 月 1 日 令和 5 年度産業医科大学小児科忘年会

コロナ禍で開催できなかった忘年会を今年は開催します。

会場はアートクレフクラブです。どのような流れで開催するかはまだ決まっていませんが、この小児科通信を読んでいる先生、学生の皆さんの参加をお待ちしています。

13 日と 30 日のカンファレンスは会場と Zoom を使った Web 配信のハイブリッド開催です。遠方からも聴講できますので、興味のある方は医局まで連絡してください。視聴方法をお知らせします。

<11・12月開催予定の学会・研究会>

11月および12月上旬に医局員が参加する予定の学会・研究会をお知らせします。新型コロナウイルス流行の影響で、多くの学会・研究会がWeb開催または現地とWebのハイブリッド開催でしたが、現地開催のみとなった学会も増えてきました。

- 11月11-12日 18th Congress of the Asian Society for Pediatric Research (Web)
発表予定者：守田、白山、川村、柴原、大濱
- 11月18-19日 第60回日本小児アレルギー学会
(京都・京都市勧業館みやこめっせ + Web)
発表予定者：田中
- 11月25-26日 第76回九州小児科学会 (長崎・ホテルセントヒル長崎)
発表予定者：菅
- 11月25-26日 第55回日本小児感染症学会 (名古屋・名古屋国際会議場)
参加者：保科、石井、小川、多久、川村、渡邊、高橋、煙草谷
(保科以外は発表予定)
- 12月1-3日 World Allergy Congress 2023
(バンコク・Centara Grand and Bangkok Convention Centre at Central World)
発表予定者：田中
- 12月2-3日 第37回日本小児脂質研究会
(北九州・産業医科大学ラマツィーニホール + Web)
参加者：山本、齋藤、桑村 (発表予定)、池上、多久葵、島本
- 12月9日 第523回日本小児科学会福岡地方会 (福岡・九大百年講堂 + Web)
発表予定者：重田

上記に興味があり、参加を希望される方および詳細を知りたい方は、小児科医局に電話(093-691-7254)をいただくか、メール(hoshina@med.uoeh-u.ac.jp)をお送りください。

<論文掲載情報>

当科医局員が筆頭著者もしくは共著者として名前の入っている論文の掲載情報です(9・10月掲載分)。小児科専門医取得のためには、自身が筆頭著者である論文が必要になります。当教室では、修練医にも積極的に論文作成に携わってもらい、専門医試験の受験資格をクリアできるよう指導しています。また、できるだけ英文雑誌への投稿を勧めます(PubMedに自分の名前が出てくると嬉しいです)。このことは、市中の総合病院

ではなかなかできない利点だと思います。論文を作成することで、より理論的な考え方ができるようになります。診療の視点を広げるためにも、論文作成に積極的に取り組みましょう。

1. Ogawa M, Hoshina T, Abushawish A, Kusuhara K. Evaluation of the usefulness of culture of induced sputum and the optimal timing for the collection of a good-quality sputum sample to identify causative pathogen of community-acquired pneumonia in young children: A prospective observational study. J Microbiol Immunol Infect 2023; 56: 1036-1044.

2. Kawamura M, Shimono M, Suga R, Yoshino K, Fujino Y, Tsuji M, Sanefuji M, Ohga S, Hoshina T, Kusuhara K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Occupational exposure of pregnant women to refined oil and infant wheezing: Japan environment and children's study findings. Clin Exp Allergy 2023, in press.

<おわりに>

小児科通信第 79 号はいかがでしたか。掲載した情報が皆さんの役に立てば嬉しいです。

11 月の行事予定や開催予定の学会の項でも紹介しましたが、11、12 月は 2 つの国際学会に教室の先生が参加・発表されます。特にアジア小児科学会 (ASPR) には 5 人の先生に発表してもらうことになりました。まだ国際学会に参加したことのない皆さんはイメージがわからないかもしれませんが、国内の学会と比べて華やかでゆっくりした時間が流れています。講演内容も充実していますが、何よりも学会参加という理由を付けて、海外の都市に滞在できることはとても嬉しいことです。空いた時間に観光やその土地の名物料理を堪能することができます。もちろん参加は発表および論文化することが前提ですが、普段の忙しい勤務を忘れてリフレッシュできます。これからも国際学会にはぜひ参加してもらいたいと思っていますので、若い先生も発表に挑戦してください。

これまでの通信にも記載しましたが、最終的にはこの通信を読んでいる学生と初期研修医の皆さんが大学の医局に所属し、一緒に働けることが上級医の望みです。また、すでに小児科医として働いている皆さんが、日常診療や学会参加を通じてより一層レベルアップされることを願っています。

12 月 1 日に教室の忘年会を開催します。コロナ禍前と同じような盛大な会になれば良いなと思っています。そのためには多くの皆さんの参加が必要です。学生の皆さんも勉強で大変かもしれませんが、ぜひ前向きに参加を検討してください。

文責：保科 隆之（小児科通信制作係）